



第9回(通算第21回)通常総会議案書

日 時 : 2013年5月19日(日)

10:30~14:00

場 所 : 藤沢産業センター

総 会 次 第

1. 開 会

2. 理事長挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 資格審査

6. 議事審議

第1号議案 事業報告

第2号議案 決算報告および監査報告

7. 報告

事業計画および事業予算

8. 永年勤続表彰

9. 閉 会

はじめに

市民参加の街づくりの活動を始め22年目に入りました。『ぐるーぷ藤』は、自己決定・自主運営・自主管理の精神でメンバー全員で自己実現に向け日々努力をしてきました。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、厚生労働省は地域包括システムを推進することにより、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活することを目指すとしています。在宅で24時間365日、切れ目ないサービスを提供することの必要性は、私たちがずっと主張してきたことであり実践してきたことです。市民目線で地域を見つめているからこそ本当に必要な制度作りにも声を上げることができています。

私たちは在宅で暮らす最重度の方たちを支えるべく、今年は複合型サービスに取り組みます。いままで医療行為を伴うご利用者の受入は難しく家族の負担は限界でした。かねてから福祉と医療の連携の必要性を実感し研修も重ねていましたが、今年は一步すすめ医療現場での実習を行うことができるようになり、連携と協力体制が構築できました。利用者とその家族の支えとなる事ができるよう更に経験を重ねてまいります。

いつの場合も藤の原点である本来事業を見失うことなく、利用者との助け合い、メンバー同士の助け合いと共助による街づくりを目指し、さらに藤沢を福祉豊かな街にするべく私たちは前進してまいります。

第1号議案

2012年度事業報告

1. 組織運営

福祉マンション「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」は今年も地元藤が岡の地に根づく活動ができました。大勢いる地元のスタッフの様々なご縁からどんぐり園はじめ地元自治会・学童保育・中学校などとの交流が頻繁に行われ休日にはスタッフの子どもたちがボランティアとして来館することなどが定着してきました。

ぐるーぷ藤では、ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することを方針として掲げていますが、今年度も多くのスタッフが部門を越えて活躍しました。

事業の拡大にともない増える組織の能率的な運営を図ることを目的に職務権限規程の見直しを行いました。運営会議、部門代表会議、理事会で活発な話し合いを経て作成しました。

また「ふじファンド」の終了にあたりぐるーぷ藤の活動を資金面から支える新たな仕組みづくりを検討しました。

運営については、年4回の理事会で予算をはじめ事業運営に関する重要事項の検討を行い、必要に応じて開催した運営会議で随時新たな課題についての検討を重ねました。内部理事及び各事業部門の代表で構成された部門代表会議を月1回開催しました。理事会での決議を踏まえて各事業に関する諸事項の討議を行いました。月1回の運営報告会で全会員に対して運営状況の報告を行いました。部門ごとに会議や担当者ミーティングを随時持ち、それぞれの課題を解決し情報を共有するとともに、研修の場となるように努めました。また部門の枠をこえた委員会活動やプロジェクトは、さまざまな形で会員が運営に参加する機会になりました。

今年度も被災地のNPOを中心に引き続き支援を行っていきます。

2. 事業・活動部門

「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」を拠点にして地域に根ざしたさまざまな活動が出来ました。部門間の連携を密にしご利用者の多様なニーズにできるだけ柔軟に対応しました。医療依存度の高いご利用者に応えるため、2月から小規模多機能型居宅介護のサービスに訪問看護のサービスが加わった「複合型しがらきの湯」を開設しました。また「デイハウス藤の花」は建物の老朽化と耐震性の不安から2月やむなく閉所し、新たに大規模で小規模多機能型居宅介護として事業を開始しました。念願である二番館には着手できませんでした。

「認定NPO」取得のために様々な準備をしてきた結果、5月には申請できる見通しとなりました。

レストラン「オハナ」は、食事の場だけでなく地域の交流の場、憩いの場としても多くの方にご利用いただきました。ぐるーぷ藤のシンボルとしてゆっくりとくつろげる集いの場として定着しました。

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

ご利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくために心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えました。

本来事業ではご利用者やご家族のさまざまなニーズに対応しその方らしい生活を支えることが出来ました。また、子育て支援では母親の育児負担の軽減につながりとても喜ばれましたが、支援期間、家政婦さんとの違い等ヘルパーの心の葛藤に対する課題も今後に残りました。

介護保険事業ではケアマネジャーだけでなく地域包括支援センターからの依頼も積極的に受け活動範囲が藤が岡からよりいっそう広がりました。ご利用者の生活を支えるヘルパー事業所として他職種に利用者の声を発信し、その方らしく生活して頂くための役割を担ってきましたが、緊急対応の多さ等、独居高齢者の在宅生活の困難点も浮き彫りになってきました。終末期のケアではご利用者の不安や希望に揺れ動く姿に寄り添う事の難しさもありました。

障がい者自立支援事業ではニーズが前年に引き続き増えましたが危険を伴う自閉症児の移動支援や精神障がい者のケア等内容の困難さも出てきました。行政や相談事業所と連携を深めることで利用者のニーズに応えることができました。又、法令に基づいた喀痰吸引登録特定行為事業所の指定を受け、今年度も痰の吸引を伴うケアを継続しました。24時間対応のご家族の介護負担を軽減することができ、とても喜ばれました。

事業所加算Ⅱを取得した事業所として昨年に引き続き困難なケースにも積極的に対応し、多様な利用依頼に出来る限りこたえました。対人援助の基本である訪問介護の介護力アップ、ヘルパーの資質向上の為に、毎月の会議等でさまざまな研修を行い、日々きめ細かい介護で対応することの出来る事業所を目指して努力しました。

2-2 通所介護事業（デイハウス藤の花・デイハウス菜の花）

◇デイハウス菜の花

菜の花は、利用時間が1時間延長されたことで午後からのカルチャーが充実しました。認知機能低下を予防する目的で始めた、計算ドリルや記憶力ドリルがゲストの皆さまから好評を得て継続しています。その結果作品作りに積極的に取り組まれるなど挑戦意欲が向上しました。

◇デイハウス藤の花

藤の花は開設以来ゲストとご家族の支援に努めてきました。重度の方々を受け入れご家族の気持ちにも沿うことで在宅生活を支えました。介護福祉士の配

置を充実させサービス体制加算Ⅰを取得し、それに恥じぬよう内部・外部の研究に積極的に参加する等スタッフのスキルの向上に努めました。しかし、築50年の建物の老朽化と耐震性の不安の為にゲストの皆様、ご家族、近隣の方々に大変惜しまれながら2月14日に閉所いたしました。その後、今まで積み上げてきた信頼と経験を生かし、かねてよりゲストの皆様からの要望が多かった「泊り」が実現できる小規模多機能型居宅介護を大鋸にて開所いたしました。

2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

4月の介護保険の制度改正により、より一層介護支援専門員の資質やケアマネジメントの質の向上が求められています。適切なアセスメントにより、医療との連携を密にしながら介護予防と自立支援を目標にした、公正中立なケアプランを心がけました。

2月には、小規模多機能藤の花・複合型しがらきの湯が同時に開所となりました。同一法人内での事業所という利点を生かし、ご利用者の移行については連携を密に行うことができました。

加算取得事業所として、支援困難事例の依頼も積極的に引き受けてきましたが、1月に人員基準を満たすことができなくなり加算を取り下げました。

増加する認知症や一人暮らしの高齢者の方達が住み慣れた地域で暮らせるように、包括支援センターとの連携や地域資源の活用を積極的に行ってきました。しかし、救急車や警察への出動要請が増え連絡先や鍵の管理をどうするかなどの課題が浮き彫りになってきました。

2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤しがらきの湯）

「通い」「訪問」「泊まり」を組み合わせ、ご利用者とご家族にとって柔軟な対応で住み慣れた自宅での生活の継続を支援しました。本年度も多くの方々から申し込みや問い合わせがあり、登録人員に空きのない状態が続きました。

回数を増やした運営推進会議では計画作成担当者の参加により詳しいケア内容の説明や事例相談なども行われ、それにより地域包括支援センターと問題の共有を図ることができました。また2回目となる家族会は参加されるご家族も増え、お互い気軽に介護についての話をされ前回より一歩進んだご家族の交流の場となりました。

地域との交流では育児サークルの場に行き子供たちの姿に笑顔がこぼれ、どんぐり園の運動会では競技に参加して楽しみました。お祭りなどの自治会の行事にも参加しましたが、ご利用者の高齢化に伴い参加行事が少なくなっています。定期的なハモニカ演奏、音楽レクリエーションや、学童クラブの保護者による音楽演奏などたくさんの地域ボランティアが来てくださいました。

重度化したご利用者や訪問診療、訪問看護の必要のある高齢者が増加しています。2月にはそれらのニーズに対応し、いままでの小規模多機能居宅介護の

サービスに訪問看護のサービスが加わった複合型サービスとして発展させました。

2-5 訪問看護（訪問看護ぐる一ふ藤）

訪問看護ぐる一ふ藤は3年目を迎え新人スタッフも入り、気持ちも新たに引き締めました。これまでと同じように住み慣れた家で安心して暮らして欲しいというご利用者の思いを大切に、予防的看護から医師の指示による医療的処置まで様々なサービスを提供しました。主治医やケアマネジャー等在宅生活をする上での関係者との連携を密に図り、ご利用者の状態変化の早期発見に努め迅速に対応しました。ご家族からの相談に対応することも増え精神面も含め適切な援助を心がけました。

病院の地域連携室や初めての居宅介護支援事業所からの依頼も増え始め、少しずつ知られるようになってきました。また、2月には複合型サービスも加わり、今までのご利用者も含めて、充実したサービスを続けています。

2-6 精神障がいグループホーム（藤が岡の家）

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、世話人中心に日常生活をサポートするとともに、看護師始め他のスタッフの暖かい声かけや見守りを通して安心の暮らしを提供しました。

開設から6年目を迎え、1名のメンバーがグループホームから近所のアパートで自立生活を始めることができました。藤が岡の家の初めての卒業生として緩やかな交流を通し、生き生きとした一人暮らしをしています。藤が岡の家には新たなメンバーを1名迎えました。

経過とともにメンバーの年齢も上がり、生活習慣病等の体調管理の相談を行い生活リズムの維持を支援することが多くなってきました。また地域の作業所や行政機関と協力をしながらデイケアから作業所へ、グループホームから地域の自立生活へとメンバーそれぞれの立場で生活の技術が向上し、活動の場が広がりを見せています。

毎年参加している地域のお祭りでは積極的に準備を楽しめるようになりました。恒例の食事会では参加するボランティアが多様化し小さい子供の参加も自然な形で得られさらに充実してきました。

一人ひとりの自立した生活スタイルを模索する中で、自立支援型グループホームの必要性や新たな入居希望者からの多数の相談など、障がいを持ちながら地域の中で安心して暮らせる場として障がい者グループホームのニーズが膨らんできています。

2-7 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

おもてなしの心を大切にし、お住まいの方に安心して心豊かに暮らしていただくように努めました。また、「終の棲家」として自分らしく最期を迎えたいという気持ちを汲み入れ、その時を迎えるまで家族と共に寄り添うことが出来ました。看護師による個別の健康相談を充実させ、健康診断や訪問診療を通し主治医とのコミュニケーションを密にし、入退院後の生活を不安なく送っていただけるよう対応してきました。必要に応じて介護保険によるデイサービス・ホームヘルプ・訪問リハビリなどを利用しながら、一番館サービスとの組み合わせを考えケアを充実させました。3・4階それぞれリビングでの食事や談話・カルチャーなどに皆様が楽しく集えるように配慮し、毎日の笑顔が絶えることのないように努めました

お住まいの方の高齢化にともない皆様での外出が難しくなっていますが、少人数での初詣やドライブ、近くの公園を利用し季節の花見をしたり自治会行事などにも積極的に出席し、地域社会への参加を忘れないよう支援しました。ソフト食の方も多くなっているため厨房と協力し食事内容や食器を工夫し、ケータリングを取り入れ個々の食事の楽しみ方も考え提供しました。ご家族の年齢も高くなっており相談に応じ不安を取り除くなど精神的援助を行いました。

災害時にいつでも対応できるよう今年度は夜間避難訓練を含め計画的に防災訓練を行いスタッフの防災意識を高めていきました。

2-8 厨房及びレストラン（オハナ）

厨房では管理栄養士を配置し、食事のバランスを考えたメニュー作りを心がけ、一番館にお住まいの方やしがらきの湯を利用されている方々の急な体調変化や要望に迅速に対応しました。中でもソフト食は大変好評で味付け・彩り・盛付けを工夫することにより召し上がっている方々の食欲が増してきました。

レストラン「オハナ」は施設のシンボルとして寛いでいただける雰囲気作りに努めました。お客様の要望に応え新たに和風メニューも取り入れ、様々なお客様に喜ばれました。またご近所からのお弁当の注文も多く、地域の方々のSOSにも対応するなど地域に根ざしたレストランとしてぐるーぷ藤の応接間の役割を果たしました。

一方仕入れ業者や厨房機器の修理保全の見直し等新たな業務改善に取り組みました。今後も質を低下させずに見直していく事は来年度の課題となりました。

2-9 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャーが常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療に関するあらゆる相談に24時間応じています。オハナの常連のお客様から近くで倒れている方がいるとの通報を受け、スタッフが車いすを用意し駆けつけ自宅まで送

りました。翌日自治会長から骨折で入院されたと報告されました。

また電動車いすご利用の方が、夜間車いすの充電を希望されスタッフが1時間以上寄り添い、充電後には「安心して家に帰れます」と帰宅されました。

長年の経験を生かし緊急のSOSに対応するとともに、地域においては権利擁護の観点に立ち、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをするNPO版地域包括支援センターの役割を担っていると自負しています。

3. 管理部門

ぐる一歩藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、効率的に業務を遂行できるよう努めました。定款、労働基準法をはじめとする法令遵守を徹底するとともに、請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実に遂行しました。予算の執行にあたっては、人員配置・水道光熱費等すべてにおいて無駄を省き経費節減に努めました。コピー機に部門ごと枚数カウント設定したことによりスタッフの節約意識も高まりました。また増え続ける書類や保管品の管理のため倉庫やレンタルボックスの定期的な整理を徹底しました。

火災・震災等の予防及び安全確保のため消防計画に基づき年2回防災訓練を行いました。うち1回は全館挙げての夜間避難訓練を行いスタッフの防災意識の向上に努めました。10月には救命救急講習会を実施し心肺蘇生・AEDの使用等を実践しました。また入居者の安全性確保のためエレベーター内の可視化を実現し、セキュリティの強化に努めました。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

今年度も募集をしない中でメンバーの紹介により福祉のまちづくりの理念に賛同する仲間が9名増え、現在会員は137名となりました。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして皆がいきいきと働ける多様な職場づくりをめざし、自己実現の場をつくりました。福利厚生の充実に努め今年度初めて4名の会員に定年退職による退職功労金の支払いを行いました。また定年退職後に希望者には有償ボランティアとして活動できるよう新たな制度を設けました。有給休暇の取得もさらに増え対象者の91%が取得しました。恒例の交流会では6月にイタリアンを堪能し11月には隅田川の屋形船で東京の夜景を楽しみました。一番館で行った新年会では厨房手作りの料理に舌鼓を打ち会員によるゲームやウクレレ演奏を楽しみました。

福祉関連有資格者（2013年3月現在・重複あり）

ホームヘルパー	1級：	3名
	2級：	102名
介護福祉士		53名
保健師		1名
看護師		4名
准看護師		1名
ケアマネジャー		8名
精神保健福祉士		2名
社会福祉士		2名
社会福祉主事		1名
福祉住環境コーディネーター		2名
認知症ケア専門士		2名
学習療法士1級		1名
管理栄養士		1名
栄養士		2名
調理師		6名
理・美容師		2名
キャラバンメイト		3名
普通救命講習I修了者		46名

3-2 広報活動

年4回発行している広報誌「花どけい」は毎号特集記事を組みご利用者やご家族の寄稿もいただくなど内容の充実を図りました。被災地支援や研修プロジェクトによる報告を掲載するなど紙面づくりの工夫を行いました。「花どけい」は他団体からの評価も高く見学者や訪問者には資料として活用し広報の役割を果たしています。ホームページにはタイムリーに情報をアップし内容を充実させました。「ぐるーぷ藤」の英語の紹介を掲載したことにより海外での閲覧も増えています。

今年度もぐるーぷ藤の活動は各方面から注目されました。見学希望者の多くはスタッフの働き方、研修内容など運営に関するものに加え、地域との関わりを始めとする「まちづくり」への関心も高いように思えました。テレビ・雑誌の取材に加え放映・掲載の内容に関する問い合わせも多く、ホームページのアクセス数も増えました。見学の方や取材の方からは「オハナ」の予約もいただきランチを絶賛され、「オハナ」の広報としての位置づけも定着しました。

見学希望に対してはお住まいの方のプライバシー保護を考慮しながら対応し、現在1年先まで予約が入っています。

3-3 諸団体での役割

- ・市民福祉団体全国協議会 常務理事
- ・国家ビジョン研究会 委員
- ・内閣府〔介護プロフェッショナルキャリア段位制度〕レベル認定委員
- ・藤沢市個人情報保護制度運営審議会 委員
- ・藤沢市市民活動推進委員会 委員
- ・藤沢市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 委員
- ・藤沢市住まいと暮らし連絡会 委員
- ・神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 副会長
- ・NPO法人昴の会 理事

4. 研修プロジェクト

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応できるよう、メンバーひとりひとりに対し各部門で個別研修プログラムを設定し、『理念と意思の共有』『スキルアップ』『これからの介護について』を学びの3本柱とし、系統的な研修を組み立ててきました。また研修に参加し自己研さんを重ねたメンバーを適切に評価できるシステムをつくり、藤全体のスキルアップを図ってきました。今年度も内部、外部合わせて約150回の研修がありました。

理念の共有と継承のための「理事長と語る会」は、5回87名の参加を得ました。藤の生い立ち、藤の理念を再確認できました。また普段は会う機会の少ないメンバーの交流の場となり、有意義な研修となりました。

今年度のスキルアップ研修はメンバーのリクエストによる内容を増やし全6回開催し、述べ99名が日常的な基本介護技術の確認をすることが出来ました。

会員全体研修としては恒例の竹内佐智恵先生の介護講座は20回を数え、今年度はボランティアすみれとの共催で行いました。「公開医療講座」は藤沢市民病院救命救急センター長の阿南先生をお呼びし、「福祉施設で必要な医療・介護」をお話しいただきました。藤沢南消防署の協力を得てAEDを使用した「救命救急講習会」も行いました。

毎年行っているトップリーダー海外研修では市民協主催の福祉先進国デンマークに3名参加しました。国民の自己決定・自己責任が徹底していて介護現場でも利用者の自己選択が尊重されています。施設では全職種の従業員が同じ目標に向かい協調する重要性を学ぶことができました。

5. 新小規模・複合型開設委員会

デイハウス藤の花ではご家族への毎年のアンケートで泊まりのあるデイサービスを要望される方が多くニーズの高さを痛感していました。建物の老朽化が進み、今後の対応を検討していたところ、「婦人之友」の記事をご覧になった方から建物の提供の申し出を受けました。ご利用者の要望に応え「藤の花」を小

規模多機能型居宅介護として再出発をすることにしました。

介護保険の制度改正により小規模多機能に訪問看護が加わった複合型サービスが誕生しました。小規模多機能「しがらきの湯」はご利用者の高齢化及び医療依存度の高い方へのニーズに応え複合型サービスとなりました。ぐる一ふ藤として「一番館」を中心に“福祉の街づくり”を一步進めることができました。

6. その他の活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行いました。地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援してきました。今年度も様々な被災地支援を行いました。毎月1泊2日で行われた市民協主催の「パラソル喫茶応援バスツアー」には毎回欠かすことなく2名が参加しました。8回行われたバスツアーは12月に終了しましたが今後も被災地支援は続きます。5月には「NPO法人みらい南三陸」の理事2名をお招きし一番館を見学していただきスタッフとの交流をしながら被災の様子も語っていただきました。その後出版された「南三陸町からの手紙」の販売を手伝う等被災地で初めて設立されたNPOを支援しました。内閣府の起業家支援講座の一環で「復興支援型地域社会雇用創造事業」iSB公共未来塾の講師としてたびたび東北三県を訪れました。被災地における「地域の生活の安心」と「地域の活性化と雇用の創出をめざす」目的で行なわれたビジネスコンペに審査員として立ち会いました。

また市民協を代表して民間介護事業推進委員会の委員や厚生労働省の「キャリア段位制度」の段位認定委員として介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った発言をしてきました。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行ってきました。

※市民協：市民福祉団体全国協議会

◇講師

- ・ 05/22 「人生大学」(江戸川区)
- ・ 05/31 「高齢者住宅セミナー」(高齢者住宅新聞)
- ・ 06/16 「梁山泊セミナー」(市民事業支援機構)
- ・ 06/17 「社会参画セミナー・江の島塾」(県女性センター)
- ・ 06/21 「接遇研修」(一般社団法人コープ福祉とちぎ)
- ・ 06/27 「iSB公共未来塾(岩手)」(日本サードセクター)
- ・ 07/07 「事業型NPO育成支援講座(名古屋)」(日本サードセクター)
- ・ 07/16 「市民活動と福祉マンション」(東海大学)
- ・ 10/03 「安心して老いるために」(市教育委員会)
- ・ 10/09 「地域福祉のために資産を提供する」(参加型システム研究所)
- ・ 11/26 「地域連携と都市再生」(横浜国立大学)
- ・ 12/15,16 「21世紀かながわ円卓会議」(公益財団法人かながわ国際交流財団)
- ・ 02/15 「平成24年度高齢者施設職員研修会」(神奈川県聴覚障がい者福祉センター)
- ・ 03/23 「地域で支えあいましょう」(市教育委員会)

◇審査員

- ・ 09/22, 23, 24 「iSB公共未来塾岩手県ビジネスコンペ」
- ・ 09/29 「iSB公共未来塾福島県ビジネスコンペ」
- ・ 10/6, 7, 8 「iSB公共未来塾宮城県ビジネスコンペ」
- ・ 01/26, 27 「iSB公共未来塾採択者訪問」

◇被災地訪問

- ・ 「パラソル喫茶応援バスツアー」3/31-4/1、5/12-13、6/9-10、7/14-15、8/11-12
10/13-14、11/9-10、12/8-9
- ・ 09/22 「ありがとう登米町」NPO法人みらい南三陸主催コンサート
- ・ 11/04 「市民協石巻ハウス」開所式

◇取材、見学等

- ・ 取 材 : 婦人之友 NHK ジオプランニング
公益財団法人かながわ国際交流財団
明治大学 塚本一郎先生
- ・ 見 学 : 34件 113人
- ・ テレビ放送 : 02/25 NHK「大人ドリル」
- ・ 雑誌掲載 : 「婦人之友9月号」
「優しい福祉 第3号」

2012年度 全体研修・部門別研修

		月 日	名 称
全体研修	内部研修	通年	新入会研修
		7月7日	公開医療講座市民病院阿南先生「福祉施設に必要な医療・介護」
		7月14日	法令遵守
		8月18日	藤・すみれ共催「竹内先生の介護講座」
		9月8日	個人情報保護・プライバシーについて
		9月10日～10月24日(6回)	スキルアップ研修
		10月27日	救命救急講座
		11月8日～12月11日(5回)	理事長と語る会
		12月22日	せっけん講習会
		1月12日	接遇研修
		2月9日、23日	介護福祉士国家試験実技対策講座
		3月9日	就業規則について
		外部研修	5月22日
	6月12日		藤沢市介護保険事業所連絡会主催「認知症ケアのポイントと今後の在り方」
	6月15日		在宅医療研究会「災害時における医療・介護について」
	7月2日		シルバーサービス振興会「デンマーク高齢者福祉政策と介護の現状」
	7月12日		藤沢市保健所主催「依存症について」
	7月20日		国家ビジョン研究会主催「増え続ける社会保障 日本の医療・看護・介護」
	9月15日		藤沢湘南台病院主催「緩和ケア推進事業研究会」
	9月25日		NPO渋谷主催「ケアマネジメントのあり方検討会の動向と地域包括ケア」
	10月2日		在宅医療者口腔ケア研修会
	10月14～21日		トップリーダー海外研修「デンマーク」
	11月15日		有料ホーム見学、施設見学
	10月26日		藤沢市保健所主催「感染症ステップアップセミナー(感染症対策担当者向け)」
	11月29日		藤沢市介護保険事業所連絡会主催「ターミナルに於ける医療と福祉の連携」
	1月21日		成年後見制度の理解を深めませんか
	1月15日-2月28日(7回)		県主催:相談支援従事者研修
	2月10、11日	2012市民教研修会in愛知「介護保険制度改正とサービスの質の向上」	
2月20日	NPO渋谷介護サポートセンター主催「介護報酬改定」		
2月20日	市民福祉団体協議会研修「介護事業所の部門責任者育成研修」		

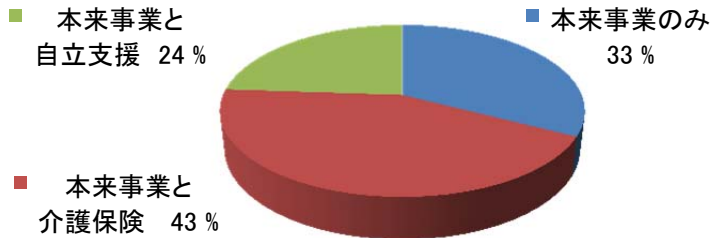
		月 日	名 称
部門別研修	しがらき 一番館 の湯	4月～3月(12回)	スタッフ会議研修「感染発生の事例検討と予防及びまん延の防止について」他
		6月13日	神奈川県小規模連絡会研修「小規模の看護師の役割と複合型サービスについて」
		8月24日	神奈川県小規模連絡会研修「地域ケアとしての小規模多機能の位置づけ」
		1月24日	複合型サービス見学「ふくふく柳町・ふくふく寺前」
		11月20日	藤沢市小規模連絡会研修「新規事業所について」
		1月16日～4月20日	喀痰吸引研修
	ぐるーぷ 藤 ホ ー ム ヘ ル プ	4月～3月(12回)	ヘルパー会議研修「訪問介護計画書と手順書の理解」他
		9月23日、10月7日	喀痰吸引研修
		10月15日	ノロウイルス等感染症研修
		10月22日、11月8日、 12月5日	サービス提供責任者スキルアップ研修
		12月5日	課題別スキル向上研修
		12月13日	新人フォローアップ研修
		1月1日	サービス提供責任者初任者研修
		1月30日	介護保険指定事業所指導説明会(管理者交替のため)
		2月20日	精神障害者ホームヘルパー現任研修「ホームヘルプと相談支援」
	デイ ハ ウ ス 藤 の 花 ・ 菜 の 花	4月～3月(11回)	スタッフ会議研修「排泄、入浴介助事故事例に学ぶ取り組み」他
		6月16日	津波対策講演会
		7月2日	藤沢市保健所主催「食品衛生責任者講習会」
		7月27日	指定介護保険事業者新規セミナー
		7月30日	感染症予防について
		9月19日	介護・福祉・医療の接遇(接遇マナー講習)
		12月8日	ノロウイルス等感染症について蔓延防止対策
		ぐるーぷ 藤 ケ ア マ ネ ジ メ ン ト	6月5日
	7月20日		介護保険事業としての福祉用具貸与・及び福祉用具購入について
	10月14日		「認知症の方を地域で支える為の精神科医療」
	10月19日		「いま介護支援専門員に伝えたいこと」
	10月23日		平成24年度介護支援専門員新人研修
	11月14日		「知っておきたいレビー小体型認知症」
	11月18日		「今後の認知症施策の方向性について」
	11月29日		地域医療・福祉関係者の情報交換
	12月12日		要介護認定に於ける意見交換
	12月18日		震災から1年9か月。今被災地で起きている現実～ 藤沢市に於いてケアマネジャーが今・・・」
	1月18日		認定調査票の役割と特記事項の記入のポイント
2月19日	住宅改修・福祉用具に関する研修		

		月 日	名 称
部門別研修	訪問看護 ぐるーぷ藤	4月～3月(7回)	訪問看護ミーティング研修「安全対策」他
		6月23日	認知症ケアの理解と援助
		9月15日	准看護師の為のスキルアップ研修Ⅱ「高齢者の看護」
		11月9日	便失禁による皮膚障害のアセスメント
		11月20日	第7回藤沢褥瘡研修会 目指そう地域ぐるみの褥瘡対策
		12月1日	胃瘻の管理
		12月8日	管理者マニュアル研修
		12月21日	褥瘡の局所治療について
		3月9日	実践にすぐに役立つ遺族ケア・エンゼルケア・メイク エンバーミング
	藤が岡の家	4月～3月(5回)	藤が岡の家ミーティング研修「自立支援法について」他
		3月7日	藤沢市自立支援協議会「グループホーム世話人研修」
		5月24日	精神保健福祉公開講座「統合失調症について」
		8月29日	県央福祉会かたくりグループホーム見学研修
		9月25日	湘南東部ナビゲーションセンター主催「GH等職員研修」
		10月11日	精神保健福祉公開講座「気分障害について」
		12月3日	障害者GHサポートセンター主催「GH等開設説明会」
		12月6日	精神保健福祉公開講座「大人の発達障害について」
		12月19日	湘南東部ナビゲーションセンター主催「障害者虐待防止法の理解と支援研修」
		12月19日	藤沢市住まいと暮らし連絡会主催「世話人研修」
	厨房	4月～3月(5回)	スタッフ会議研修「シフト食について」他
		5月29日・6月7日	藤沢市保健所主催「食品衛生責任者講習会」
		2月19,20,21日	日本給食サービス協会主催「フードケータリングショー、厨房設備機器展」
	事務	4月～3月(6回)	事務職会議研修「ヒヤリハットの共有」他
		10月26日	ソリマチ会計ソフト研修
		1月29日	介舟ファミリーバージョンアップ研修

ご利用者 分布

(2013年3月)

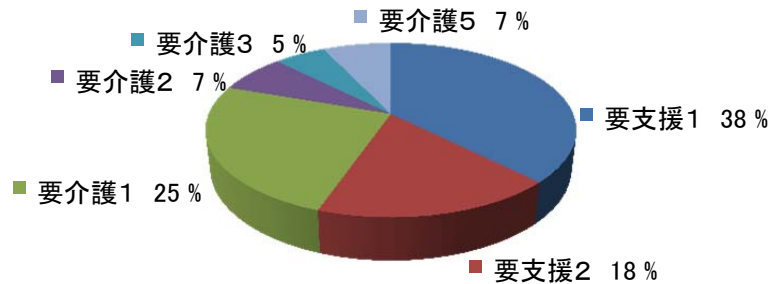
訪問介護(本来事業)



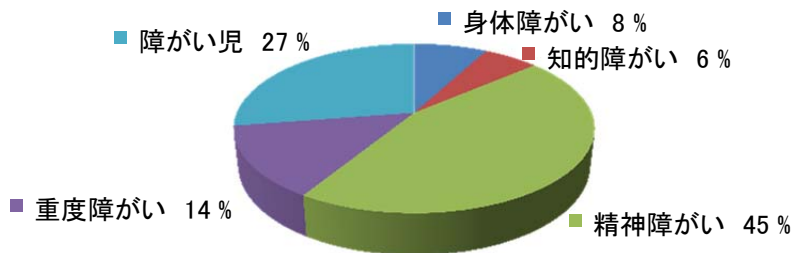
年齢	%
20歳以下	7%
30歳代	7%
40歳代	2%
50歳代	4%
60歳代	15%
70歳代	15%
80歳代	37%
90歳代	13%

訪問介護(介護保険)

年齢	%
40歳代	2%
50歳代	4%
60歳代	4%
70歳代	25%
80歳代	48%
90歳代	18%



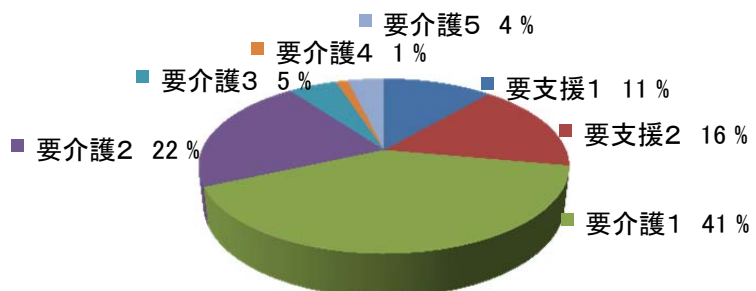
訪問介護(障がい者自立支援)



年齢	%
児童	8%
10歳代	22%
20歳代	2%
30歳代	16%
40歳代	24%
50歳代	12%
60歳代	18%

居宅介護支援

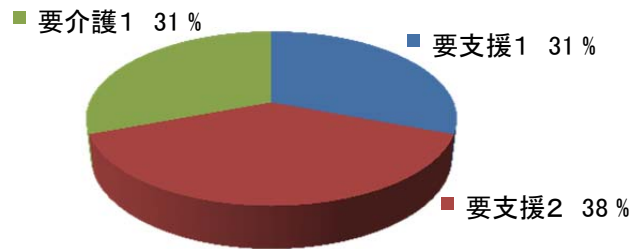
年齢	%
40歳代	1%
50歳代	1%
60歳代	1%
70歳代	27%
80歳代	53%
90歳代	16%



予防通所介護(デイハウス菜の花)

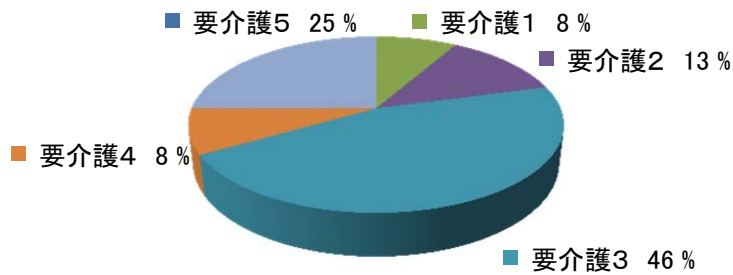
(2013年3月)

年齢	%
60歳代	0%
70歳代	12%
80歳代	62%
90歳代	27%



小規模多機能型居宅介護(しがらきの湯)

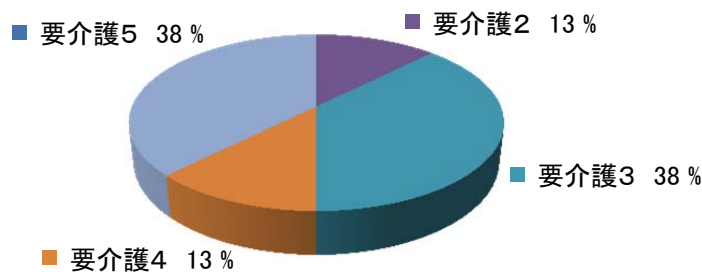
(2013年1月)



年齢	%
60歳代	0%
70歳代	8%
80歳代	20%
90歳代	72%

複合型(しがらきの湯)

(2013年3月)

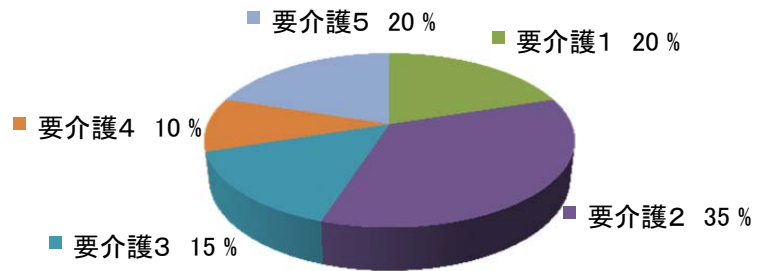


年齢	%
60歳代	0%
70歳代	0%
80歳代	31%
90歳代	69%

通所介護(デイハウス藤の花・カルチャー)

(2013年1月)

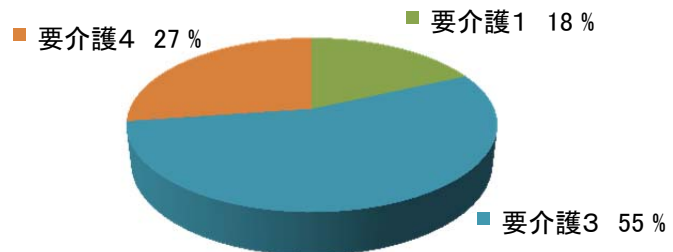
年齢	%
60歳代	10%
70歳代	0%
80歳代	55%
90歳代	35%



通所介護(デイハウス藤の花・認知)

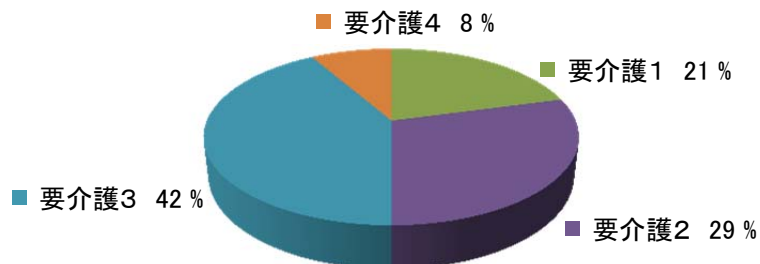
(2013年1月)

年齢	%
60歳代	9%
70歳代	18%
80歳代	55%
90歳代	18%



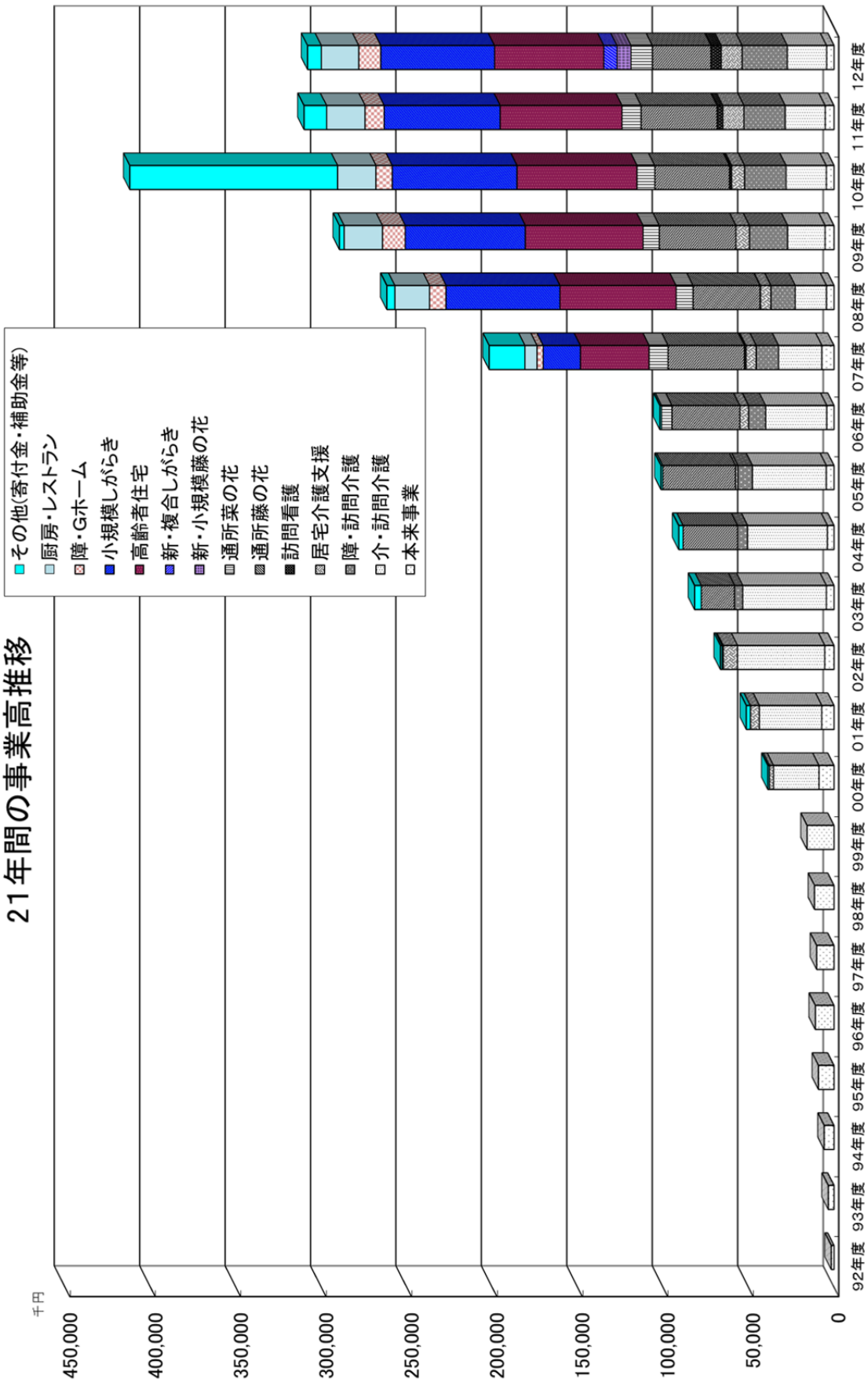
小規模多機能型居宅介護(藤の花)

(2013年3月)



年齢	%
60歳代	4%
70歳代	17%
80歳代	33%
90歳代	46%

21年間の事業高推移



第2号議案 2012年度 決算報告書及び監査報告
 2012年度 活動計算書 (特定非営利活動に係る事業)
 2012年4月1日から2013年3月31日まで

科 目	金 額	額 (税込、単位：円)
I 経常収益		
1 受取入金	11,000	
さわ会 員 入 会 金	9,000	20,000
2 受取会費	84,000	
さわ会 員 年 会 費	8,000	
藤 助 会 員 年 会 費	30,000	122,000
3 受取寄付金		4,105,860
4 受取助成金等		300,000
5 事業収益		300,395,149
6 その他収益	17,623	
受 雑 取 収 入	3,101,403	3,119,026
経常収益計		308,062,035
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給 料 手 当 等	171,125,198	
有 償 ボ ラ ン テ ィ	2,020,769	
賞 法 定 福 利 生	11,288,000	
福 厚 費	18,086,000	
人 件 費	762,098	
そ の 他 経 費	203,282,065	
(2) その他経費		
デ イ 食 材 通	13,242,863	
事 業 費 交 品 費	4,278,910	
消 耗 品 費	2,172,064	
修 繕 費	633,838	
印 刷 製 本 品	308,337	
什 器 備 品 費	1,950,005	
光 熱 水 借 道	7,844,315	
賃 保 險 信 料	6,035,403	
通 研 修 議 費	441,040	
会 租 減 価 公 却	907,813	
燃 ち づ く り 対 策	257,895	
諸 支 払 手 数	31,802	
支 雑 被 災 地 支 援	1,483,034	
そ の 他 経 費	16,794,467	
事 業 費	1,036,247	
支 雑 被 災 地 支 援	493,078	
そ の 他 経 費	30,800	
事 業 費	249,934	
支 雑 被 災 地 支 援	613,204	
そ の 他 経 費	1,199,420	
事 業 費	10,086,216	
支 雑 被 災 地 支 援	70,090,685	
そ の 他 経 費		273,372,750
2 管理費		
(1) 人件費		
給 料 手 当 等	2,655,923	
有 償 ボ ラ ン テ ィ	572,951	
福 利 厚 生	1,311,632	
退 人 件 費	400,000	
そ の 他 経 費	4,940,506	
(2) その他経費		
会 旅 費 交 通 費	1,045,128	
通 信 費	911,640	
什 器 備 品 費	683,772	
消 耗 品 費	216,594	
修 繕 費	3,621,736	
印 刷 製 本 品	296,513	
燃 熱 水 借 道	857,660	
賃 保 險 信 料	1,824	
通 研 修 議 費	880,209	
会 租 減 価 公 却	3,815,798	
燃 熱 水 借 道	11,250,324	
賃 保 險 信 料	166,379	
通 研 修 議 費	2,056,765	
会 租 減 価 公 却	82,666	
燃 熱 水 借 道	4,437,197	
賃 保 險 信 料	1,182,235	
通 研 修 議 費	572,000	
会 租 減 価 公 却	279,185	
燃 熱 水 借 道	32,357,625	
賃 保 險 信 料		37,298,131
通 研 修 議 費		310,670,881
会 租 減 価 公 却		-2,608,846
III 経常外収益		
1 固定資産売却益	0	0
IV 経常外費用		
1 過年度損益修正損	0	0
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額		-2,608,846
法人税、住民税及び事業税		73,563
当期正味財産増減額		-2,682,409
当期繰越正味財産額		158,304,672
前次期繰越正味財産額		155,622,263

2012年度貸借対照表(特定非営利活動に係る事業会計)
2013年3月31日現在

科 目	金 額 (税込、単位：円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現 金	1,440,728	
普 通 預 金	176,737,017	
貯 蔵 品	697,865	
未 収 金	38,591,383	
前 払 金	4,517,140	
立 替 金	1,500	
流動資産合計		221,985,633
2 固定資産		
有形固定資産		
建 物	320,154,129	
建 物 附 属 設 備	27,076,555	
構 築 物	1,981,032	
車 両 運 搬 具	1,665,070	
什 器 備 品	5,317,930	
土 地	166,519,448	
有形固定資産合計	522,714,164	
無形固定資産		
電 話 加 入 権	180,600	
ソ フ ト ウ ェ ア	1,105,122	
権 利 金	1,197,000	
無形固定資産合計	2,482,722	
投資等		
敷 金	1,014,000	
保 証 金	1,827,000	
投資等合計	2,841,000	
固定資産合計		528,037,886
資 産 合 計		750,023,519
II 負債の部		
1 流動負債		
短 期 借 入 金	99,500,000	
未 払 金	19,552,445	
前 受 金	50,104,429	
預 り 金	13,424,822	
仮 受 金	7,560	
流動負債合計		182,589,256
2 固定負債		
長 期 借 入 金	316,312,000	
擬似私募債申込金	95,500,000	
固定負債合計		411,812,000
負 債 合 計		594,401,256
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		158,304,672
当期正味財産増減額		-2,682,409
正味財産合計		155,622,263
負債及び正味財産合計		750,023,519

2012年度 財産目録

2013年3月31日現在

科 目		金 額	(税込、単位：円)
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金	現金手許有高	1,440,728	
普 通 預 金	横浜銀行 中央支店3口座	176,737,017	
未 収 金	利用料等	38,591,383	
貯 蔵 品	ユニホーム、書籍等	697,865	
前 払 金	前払保険料、リサイクル預託金他	4,517,140	
立 替 金	施設賠償責任保険立替	1,500	
流 動 資 産 合 計			221,985,633
2 固定資産			
建 物	一番館 藤が岡、内部造作等	320,154,129	
建 物 附 属 設 備	電気設備等	27,076,555	
構 築 物	藤の花、一番館外構工事	1,981,032	
車 両 運 搬 具	ワゴンR2台、日産セレナ、トヨタア	1,665,070	
什 器 備 品	ガス乾燥機、ソファ他	5,317,930	
土 地	一番館 藤が岡	166,519,448	
有 形 固 定 資 産 合 計		522,714,164	
電 話 加 入 権		180,600	
ソ フ ト ウ ェ ア	ホームページ製作費、介護ソフト	1,105,122	
権 利 金	山王プラザ賃貸契約礼金	1,197,000	
無 形 固 定 資 産 合 計		2,482,722	
敷 金	藤が岡 駐車場3台ほか	1,014,000	
保 証 金	山王プラザ保証金ほか	1,827,000	
投 資 等 合 計		2,841,000	
固 定 資 産 合 計			528,037,886
資 産 合 計			750,023,519
II 負債の部			
1 流動負債			
短 期 借 入 金	横浜銀行ファンド返済資金借入	99,500,000	
未 払 金	3月分給料等 他	19,552,445	
前 受 金	一番館入居者入居金等	50,104,429	
預 り 金	一番館入居者等預り保証金	13,424,822	
仮 受 金	レストランおけ食事券8枚分	7,560	
流 動 負 債 合 計			182,589,256
2 固定負債			
長 期 借 入 金	横浜銀行設備資金借入2口	316,312,000	
擬 似 私 募 債 申 込 金	191口×50万払込額受入	95,500,000	
固 定 負 債 合 計			411,812,000
負 債 合 計			594,401,256
正 味 財 産			155,622,263

監 査 報 告 書

NPO法人ぐる一ふ藤
理事長 鷺尾 公子殿

下記の通り監査をいたしましたので、ご報告いたします。

記

- ・ 監査実施日 2013年5月7日
- ・ 立 会 人 理事長 鷺尾 公子、事務局長 吉村 さえ子、経理主任 富田 信美
- ・ 監査対象期間 2012年4月1日～2013年3月31日
- ・ 監 査 方 法 実査及び立会人からの聞き取り

1. 会計監査

- ・ 諸伝票、預金通帳、現金、証憑書類並びに活動計算書、貸借対照表及び財産目録などについて実査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

2. 業務監査

理事長 鷺尾公子氏から2012年度事業に関する概要説明を受け、当該事業計画に沿って監査を実施しました。

- ・ ぐる一ふ藤が創立の理念を一貫して曲げずに、着実に地域に根ざし新しいニーズに応じて一歩先を見据えて実践し、常にご利用者だけでなくスタッフの幸せも大切にしている姿勢に敬意を表します。
- ・ 藤沢市では初、県内でも3例目となる複合型サービス「しがらきの湯」の開所は、「藤」の底力を端的に表していると評価いたします。また、「藤」の活動を評価し応援して下さる方との幸運な出会いにより、デイハウス藤の花が小規模「藤の花」として再スタートできたことは、21年間の実績の成果と評価いたします。
- ・ 法律改正により終了したふじファンドに代わる擬似私募債に、3日間で1億円を越す応募があったことは、地域に根ざす「藤」への信頼の表れと評価いたします。
- ・ 認定NPO法人格取得および二番館建設については来年度に期待いたします。

2013年5月7日

監事 小野 淑子



監事 藤澤 抱一



報告

2013年度事業計画

I. 事業方針

(1) 基本方針

年老いても、障がいがあっても、病気になっても安心して暮らせる地域社会をつくるため、特定非営利活動法人として社会的責任を果たすとともに、市民相互の助け合いのまちづくりをめざします。

(2) 運営方針

1. 組織運営

NPO法人ぐるーぷ藤は、趣旨書および定款にもとづき事業を行います。

理事会の議決を経て事業と活動の方針について討議する運営会議を月1～3回行います。そこでまとめられた提案事項について毎月開かれる部門代表会議で検討し、その後全メンバーを対象に運営報告会を開催し活動を共有します。またそれぞれの部門会議において会員の意見交換を行いその内容を事業活動に反映させる等民主的な運営をめざします。

昨年度も「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」の地元を中心に新しい仲間を迎えることができました。創設の理念を共有し継承することを大切にして、多様な働き方を実践していきます。ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することをさらにすすめます。

4月より、ぐるーぷ藤の活動に賛同し資金面から支える新たな仕組みとして擬似私募債「第1回ぐるーぷ藤・藤が岡債」を発行します。今年度は「認定NPO」の取得申請を行います。

藤が岡の地にしっかりと根を張り各事業をさらに安定させるとともに、一番館運営により見えてきたニーズに対応するため「二番館」の建設準備をすすめます。

2. 事業・活動部門

利用者の多様なニーズにできるだけ柔軟に対応し、本来事業、介護保険事業（訪問介護・通所介護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・複合型サービス）、障がい者総合支援事業（居宅介護・相談支援事業・障がいグループホーム）、訪問看護事業、高齢者住宅事業を連携させ、より充実した福祉の実現をめざします。

「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」においては、NPO版地域包括支援センターとしての位置づけで総合相談窓口をさらに充実させ、地域の安心を支える福祉拠点としての機能を果たします。レストラン「オハナ」では、食事の場だけでなく地域の交流の場・憩いの場としても多くの方にご利用いただけるような運営をめざします。

2-1 訪問介護（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくために、心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えます。本来事業では子育て支援、保険外サービス、家族の介護負担軽減等のニーズに応え藤らしい訪問サービスを行います。事業所加算Ⅱを取得した事業所として介護保険事業、障がい者総合支援事業では、利用者の自立に向けて困難なケースにも積極的に対応し、他職種との連携を図りながら多様な利用依頼に出来る限りこたえることができるように努力していきます。また一昨年から継続している喀痰ケア等医療依存度の高い方の在宅支援をさらにすすめます。さまざまな研修を充実させ医療的ケアに対応できるヘルパーを育て、対人援助の基本である訪問介護のきめ細かい介護力の向上に努めます。

2-2 通所介護（デイハウス菜の花）

開所より8年目となり、ゲストの皆さまの年齢の層も広がりました。介護予防の方だけでなく、心身機能の低下や疾病による後遺症の方もこられるようになっていきます。無理なくできる転倒防止の運動をとりいれ、対応能力の低下を防ぐよう努めます。昨年より評価が高かった認知機能低下の予防トレーニングを定着につなげるとともに、今年度も季節感を活かした作品作り等の多様なカルチャーの創意工夫をしていきます。

ゲスト一人ひとりの状態を把握し、個性を大切にしながら少人数のデイの良さを生かします。

2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

介護保険法の理念に基づき、介護支援専門員の能力向上を図るための専門的な知識や技術の習得を心がけていきます。

ケアマネジメントの基本である適切なアセスメントによるケアプランの作成、モニタリングや見直し、評価などで定期的にサービス提供の振り返りを行います。

増加する独居や認知症の高齢者に対しては、社会資源や地域のネットワーク化が必要になっています。地域の包括支援センターや民生委員の方々との連携を密にし地域マップの作成等で現状の把握を行いながら、介護支援専門員としての役割を果たしていけるように努力していきます。

2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 藤の花）

「通い」「泊まり」「訪問」を組み合わせご利用者・ご家族の多様なニーズにきめ細かく対応し、安心して在宅生活ができるように支えます。特にご家族の緊急時は日常の宿泊室以外に1室を常に備え体制を整えます。

運営推進会議を開催し、ご家族・自治会・民生委員・市介護保険課と情報交換や事例検討などを行い連携していきます。地域の行事に積極的に参加する等交流を深めご利用者が様々な人とふれあえる環境づくりに努めます。藤が岡に続き大鋸の「福祉の駆け込み寺」を目ざします。

週2日の「おでかけデイ」では、公園散策、外食、カラオケ等に行くことで生活リハビリを取り入れ自分らしさを発揮できる場を作ります。

開所年度はじめての家族会を開催し、施設の内覧とご家族同士の紹介、意見交換、悩み相談等交流の機会にします。

2-5 複合型サービス（ぐるーぷ藤しがらきの湯）

ご利用者が在宅で安心して暮らし続けるため、看護師、介護士が協働で支援します。藤沢市初の複合型サービスとして小規模多機能や訪問看護、医療機関との連携を積極的に行っていきます。

自治会、ボランティアの協力を得て地域との交流を深め、ご利用者が生活を楽しくしていただけるような環境づくりに努めます。また医療依存度が高くこれまでは通いやショートステイを利用できなかった方を受け入れることで、ご家族の介護負担の軽減に努めます。

ご利用者それぞれにあった支援をするために経験を積んだスタッフがさらに研修を重ね、スキルアップをめざします。複合型サービスに必要な痰の吸引、胃ろうの研修を受け喀痰吸引登録特定事業所となります。

2-6 訪問看護（訪問看護ぐるーぷ藤）

訪問看護ぐるーぷ藤は、住み慣れた家で安心して暮らしていたいというご利用者の一人ひとりの思いを大切にしています。

予防的看護から医師の指示による医療的処置まで様々なサービスを提供し、ご利用者の状態変化の早期発見に努め迅速に対応します。主治医やケアマネジャー等在宅生活をする上での関係者との連携を密に図り、適切なケアを行います。またご家族に対しても、よりよい看護の方法や相談に応じたり心身両面からの援助も大切と考え、必要時には緊急時対応もいたします。

複合型においても、医療的処置のある方については、「しがらきの湯」利用時はもちろんのこと、必要に応じて定期的に訪問看護をいたします。

一番館にお住まいの方や働くスタッフの健康相談にも応じ、安心を提供して行きます。

2-7 障がいグループホーム（藤が岡の家・本藤沢の家）

◇藤が岡の家

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、世話人を中心として日常生活をサポートするとともに、看護師始め他のスタッフの暖かい声かけや見守りを通して安心の暮らしを提供します。病状の変化や生活習慣病等の体調管理の相談を行うなど日常的に医療機関と連携を図っていきます。また地域の作業所や日中支援事業所とも協力をしながら、それぞれのメンバーにあった自立をサポートしていきます。

◇本藤沢の家

地域のニーズにこたえ入居を待っている障がいがある方々のために、新しく自立支援型グループホームを開設します。民間のアパートを借り上げ地域での生活により近い形で支援を受けながら安心して暮らせるグループホームをめざしていきます。

2-8 障がい相談支援事業

障がいがある方の自立した生活を支え、その抱える問題解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントを行います。

法人内に精神障がいのグループホームを持つという特色を生かし、主として精神障がい者のサポートを行っていきます。さまざまなサービスや地域資源を連動させ、また法人内の他部門との連携を図りながらその方の自己決定を尊重し、個別性の高い自立支援を行っていきます。

2-9 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

「終の棲家」としておもてなしの心を大切にし、お住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただけるよう努めます。看護師による個別健康相談や主治医との連携を密に図ることで安心した生活を送ると共に、介護保険と一番館サービスを利用し個々に合わせたさまざまなニーズに対応します。

ご家族とのつながりを大切にし、運営懇談会やご家族との対話を多く持ち精神的なサポートも行っていきます。地域と連携し積極的に行事参加をしながら季節感を肌で感じていただき、社会生活への意識を忘れないように支援します。年間行事を組み一年を通して楽しみを提供し、それぞれ皆様が今できることを考え活かして過ごせるよう支えていきます。

計画的に防災訓練や非常物品の確認・管理を行い、急な災害時にいつでも対応できるようスタッフの防災意識をさらに高めていきます。

2-10 厨房及びレストラン（オハナ）

厨房では管理栄養士を配置し、一番館にお住まいの方々やしがらきの湯を利

用されている方々の急な体調の変化に迅速に対応し、ソフト食等さまざまな要望に応じていきます。また美味しく彩りよい食事を提供できるよう研修を随時行っていきます。

レストラン「オハナ」は、施設のシンボルとしてくつろいでいただける雰囲気づくりに努め、これからも地域の方の交流の場・憩いの場をめざします。またお弁当や惣菜等多くのニーズに対応し、安全で美味しい食事を提供していきます。今年度からはグループホーム本藤沢の家の夕食も担当します。

2-1-1 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャーが常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療に関するあらゆる相談に応じます。

長年の経験を生かし緊急のSOSに24時間対応するとともに、地域においては権利擁護の観点に立ち、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをするNPO版地域包括支援センターの役割を担います。

3. 管理部門

ぐる一ふ藤総体の事務局を強化し事務長を配置します。管理運営に責任をもち効率的に業務を遂行できるよう努めます。請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実に遂行します。予算の執行にあたっては、人員配置・水道光熱費等すべてにおいて無駄を省き経費節減に努めます。火災・震災等の予防及び安全確保のため消防計画に基づき年2回防災訓練を行い、消防設備の点検も強化します。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

まちづくりの理念に賛同する仲間を増やします。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして皆がいきいきと働ける多様な職場づくりをめざし自己実現の場をつくりまします。健康診断手当の上限の見直しを行いました。また感染症で出勤停止と診断された場合休業補償を行います。多くのメンバーが参加し親睦を深められる交流会の開催や心とからだの健康相談を継続するなどさらに福利厚生の実現に努めます。また労働契約法の改正により義務付けられた「労働契約締結時の労働条件の明示」に従い契約書を一部変更します。

3-2 広報活動

地域に定着してきた広報誌「花どけい」はまちづくりの情報発信の媒体としてご利用者や見学者に資料として提供するなどさらに有効活用していきます。各部門のパンフレットは活動に合わせ改定していきます。またホームページは

更に内容の充実をはかり外国人からのアクセスにも対応します。
テレビや雑誌の取材には丁寧に対応します。

4. 研修プロジェクト

利用する方のニーズを的確に把握し柔軟に対応するためには、メンバー一人ひとりに高度なスキルが要求されます。また日々の業務の中で各メンバーが目標に向かって自己実現を図ることが藤全体の介護の質を高めていくと考え、今年度も『理念と意思の共有』『スキルアップ』『新しい介護』を学びの3本柱として研修プロジェクトを引き続き設置します。

メンバー及び地域社会のニーズに合わせ介護技術や幅広い知識の習得を目的に研修計画を策定するとともに、一人ひとりの経験やスキルに合わせた体系的・継続的な研修や部門ごとの専門的な研修を組み立てていきます。

さらに今年度も研修に積極的に参加したメンバーを評価していくシステムを継続していきます。

トップリーダー養成研修として今年も海外研修を実施します。

5. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行います。今年度も地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援していきます。また藤沢市の諸団体の委員、市民協常務理事、内閣府の介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル認定委員等での活動を通じて介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った発信をしていきます。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行います。

また被災地支援については現地で必要とされる支援を継続し、活動の様子を藤のホームページで順次紹介していきます。

Ⅱ. 事業内容

1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 家事、介護、育児等に関する生活支援サービスおよび相談事業

1. 通常事業

- ①内 容：高齢者、障がい者などの介護、家事援助および産後、育児等の生活支援および相談
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④従事者人員：70名
- ⑤対 象 者：90名
- ⑥事 業 費：¥5,934,473

(2) 地域福祉の向上に向けた学習および研修、啓発を図る事業

1. 介護講座等

- ①内 容：介護講座
- ②日 時：7月、9月、11月
- ③場 所：ぐるーぷ藤一番館・藤が岡
- ④従事者人員：7名
- ⑤対 象 者：藤会員およびさわ会員、地域の方
- ⑥研 修 費：¥300,000

(3) 介護保険法にもとづく事業

1. 訪問介護事業

- ①内 容：介護保険対象者への訪問介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：70名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥17,267,407

2. 通所介護事業

- ①内 容：介護保険対象者への通所介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：10名
- ⑤対 象 者：30名
- ⑥事 業 費：¥14,411,057

3. 居宅介護支援事業

- ①内 容：介護保険対象者への居宅介護支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：5名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥12,270,383

4. 小規模多機能型居宅介護事業

- ①内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」を組み合わせたサービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：40名
- ⑤対 象 者：25名
- ⑥事 業 費：¥58,685,276

5. 複合型サービス

- ①内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」「訪問看護」を組み合わせたサービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：40名
- ⑤対 象 者：25名
- ⑥事 業 費：¥49,802,563

6. 訪問看護事業

- ①内 容：介護保険・医療保険対象者への訪問看護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：5名
- ⑤対 象 者：45名
- ⑥事 業 費：¥11,930,901

(4) 高齢者・障がい者等に対する居宅介護支援および施設サービス事業

1. 居宅介護サービス事業

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者への訪問介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：70名
- ⑤対 象 者：60名
- ⑥事 業 費：¥21,330,419

2. 障がい相談支援事業

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者への相談支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：2名
- ⑤対 象 者：10名
- ⑥事 業 費：未定

3. 障がいグループホーム

(藤が岡の家)

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホーム・ケアホームの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：4名
- ⑤対 象 者：6名
- ⑥事 業 費：¥11,011,092

(本藤沢の家)

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホーム・ケアホームの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：8名
- ⑤対 象 者：11名
- ⑥事 業 費：¥12,639,297

4. 高齢者住宅

- ①内 容：高齢者に終の棲家としての住宅および生活支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：30名
- ⑤対 象 者：21名
- ⑥事 業 費：¥65,696,410

(5) 厨房・レストラン事業

1. 厨房・レストラン事業

- ①内 容：ぐるーぷ藤利用者への食事提供
一番館で働くスタッフおよび一般の方へのレストラン運営
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：15名
- ⑤対 象 者：多数
- ⑥事 業 費：¥30,563,372

(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

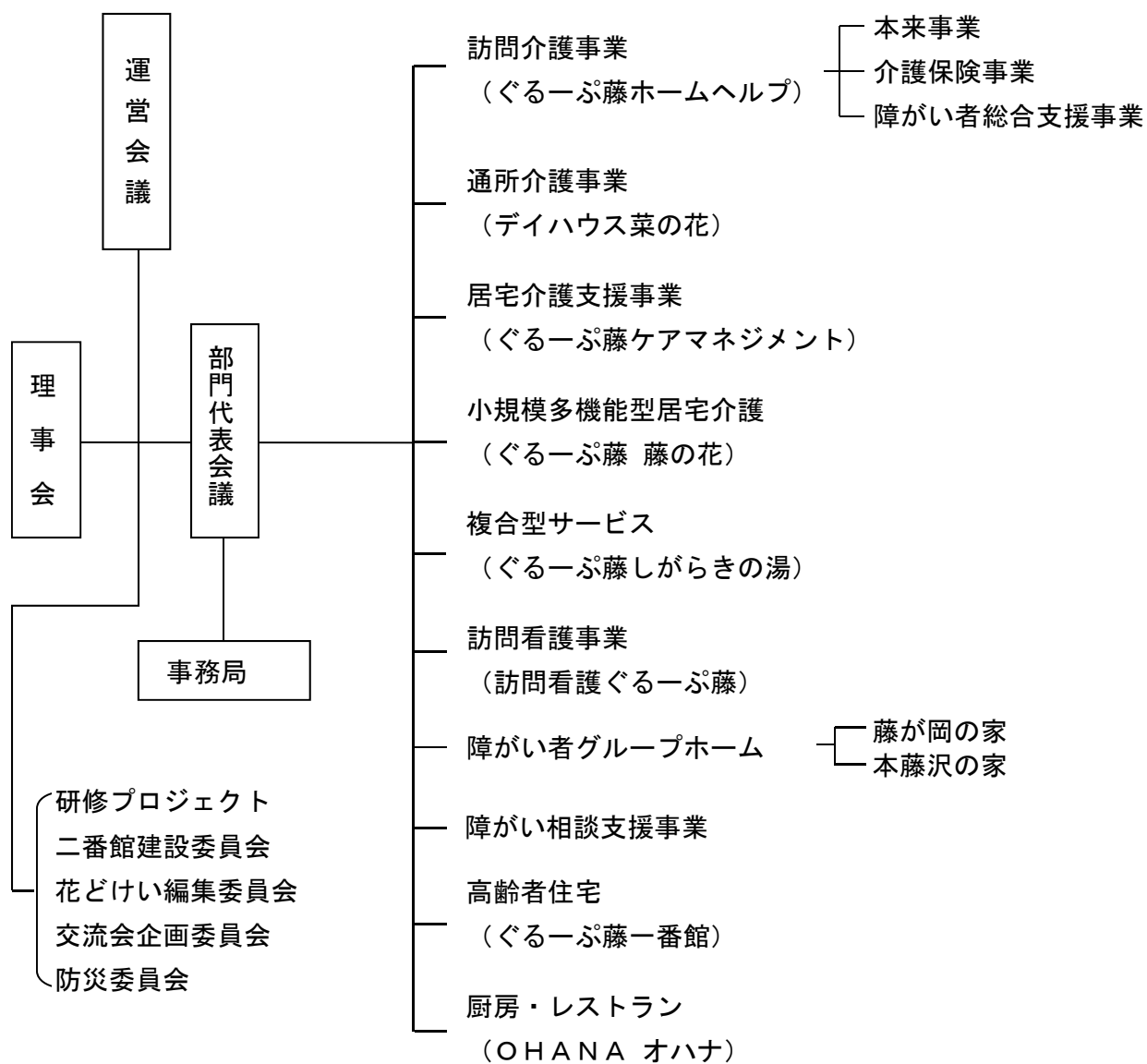
1. 総合相談センター

- ①内 容：福祉・医療に関する相談業務
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④従事者人員：10名
- ⑤対 象 者：多数

2013年度 活動予算書(特定非営利活動に係る事業)
2013年4月1日から2014年3月31日まで

科 目	金 額	(税込、単位：円)
I 経常収益		
1 入会金収入		
正会員入会金	10,000	
さわ入会金	12,000	22,000
2 会費収入		
賛助会費	15,000	
正会員年会費	10,000	
さわ会費	100,000	125,000
3 事業収入		
事業収入		344,012,365
4 補助金等収入		
助成金補助金収入		1,560,000
5 雑収入		2,616,000
6 寄付金収入		2,000,000
経常収益計		350,335,365
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 給料手当等	195,056,189	
賞与	12,000,000	
有償ボランティア	1,884,000	
法定福利費	18,100,000	
福利厚生費	806,000	
人件費計	227,846,189	
(2) その他経費		
食料費	17,218,260	
事業費	4,158,180	
燃料費	1,020,000	
消耗品費	3,193,600	
修繕費	670,000	
印刷費	390,000	
水道光熱費	7,282,800	
賃借料	11,071,819	
保険料	510,280	
通信費	879,816	
研修費	303,000	
まちづくり対策費	500,000	
会議費	52,920	
租税公課	842,800	
備償金	16,000,000	
固定資産除去損	6,000,000	
諸会費	50,000	
支払手数料	11,083,486	
支被災地支援費	348,500	
雑費	720,000	
その他経費計	801,000	
事業費計	310,942,650	
2 管理費		
(1) 給料手当等	2,799,170	
有償ボランティア	480,000	
福利厚生費	2,333,000	
人件費計	5,612,170	
(2) その他経費		
会議交通費	938,800	
旅費	1,195,000	
燃料費	72,000	
通信費	711,120	
消耗品費	2,650,000	
修繕費	100,000	
印刷費	626,000	
水道光熱費	907,200	
賃借料	2,987,075	
保険料	11,762,314	
諸謝金	100,000	
研修費	3,200,000	
租税公課	1,652,200	
雑費	350,000	
備償金	1,000,000	
管理諸費	3,693,000	
支払手数料	300,000	
支諸会費	516,000	
その他経費計	32,760,709	
管理費計	38,372,879	
経常費用計		349,315,529
当期正味財産増額		1,019,836
前期繰越正味財産額		155,622,263
次期繰越正味財産額		156,642,099

2013年度ぐるーぷ藤組織図



◆メンバー構成◆

2013. 3. 31 現在

20代	2名	1.6%
30代	7名	5.4%
40代	38名	29.5%
50代	31名	24.0%
60代	40名	31.0%
70代	10名	7.8%
80代	1名	0.8%
計	129名	

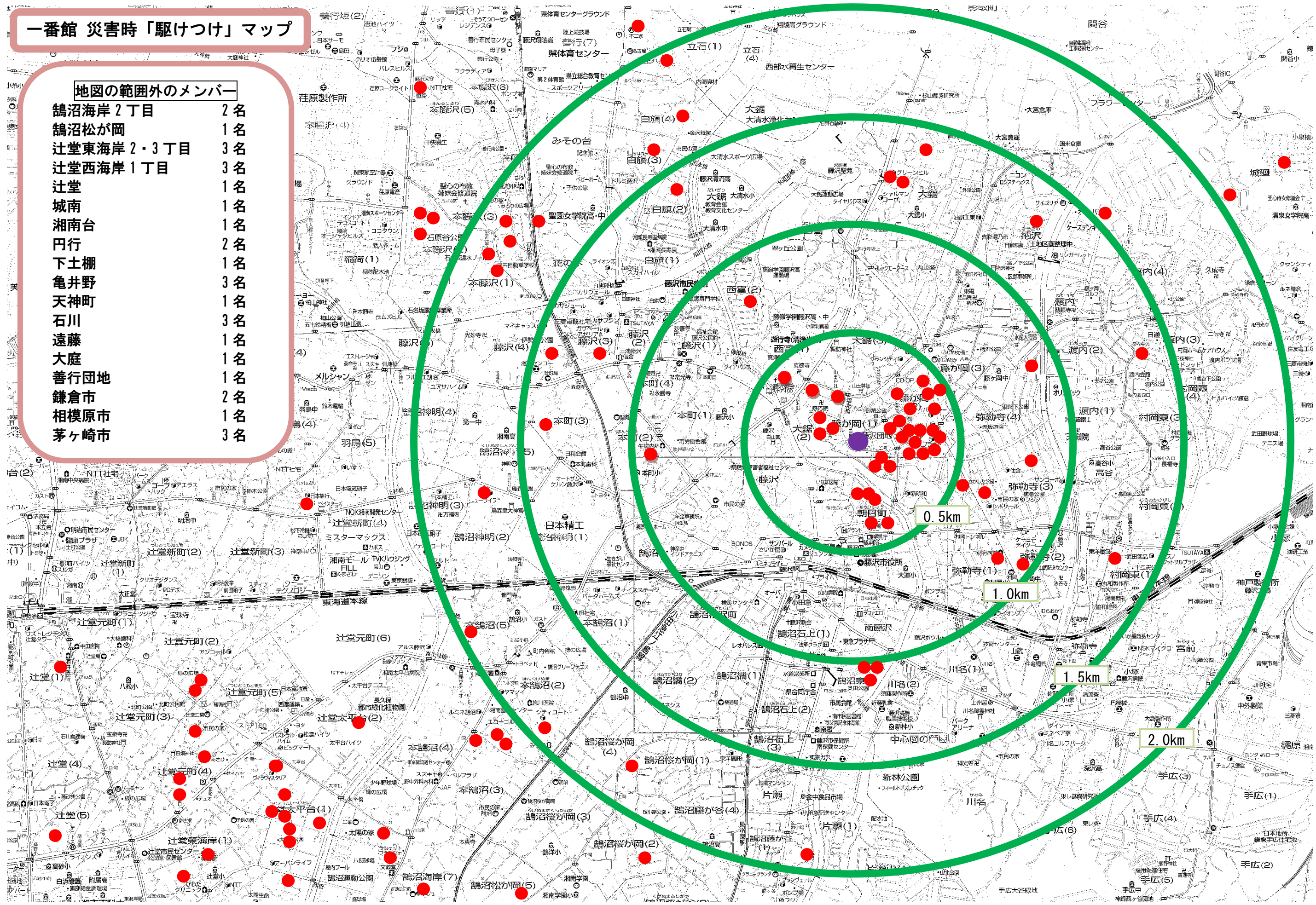
2013 年度永年勤続表彰対象者

勤続年数	対象者	入会年月日	備考
20 年	高橋 君江 小野 富久子 橋本 雅子	92. 09. 30 92. 06. 16 93. 02. 25	(3 名)
15 年	植松 美代子 野口 恵見子 戸田 紗己 松岡 薫 平松 紀子	97. 06. 18 97. 07. 01 97. 12. 06 97. 12. 06 98. 02. 01	(5 名)
10 年	木村 浩子 佐藤 律子	02. 06. 18 03. 01. 10	(2 名)
5 年	石渡 キヌ江 中村 純子 青野 加奈子 高橋 ミサ子 中山 泉 柴田 祐輔 瀬尾 敏子 佐藤 由実 益尾 和子 細矢 江美 野中 智子 前川 恵理子 林 ひろみ 伊藤 順子 吉岡 裕紀子 栃尾 ちづ子 柴田 法子 久保田 喜子 林 富子 森原 智子 常盤 恵美子 萩村 恵美子 橋本 和枝	07. 04. 24 07. 05. 15 07. 07. 17 07. 08. 20 07. 09. 21 07. 10. 04 07. 10. 04 07. 10. 15 07. 10. 17 07. 10. 17 07. 11. 01 07. 12. 17 07. 12. 18 07. 12. 20 07. 12. 19 07. 12. 20 07. 12. 28 07. 12. 31 08. 01. 07 08. 02. 05 08. 02. 01 08. 02. 23 08. 03. 24	(23 名)

一番館 災害時「駆けつけ」マップ

地図の範囲外のメンバー

- 鵜沼海岸 2丁目 2名
- 鵜沼松が岡 1名
- 辻堂東海岸 2・3丁目 3名
- 辻堂西海岸 1丁目 3名
- 辻堂 1名
- 城南 1名
- 湘南台 1名
- 円行 2名
- 下土棚 1名
- 亀井野 3名
- 天神町 1名
- 石川 3名
- 遠藤 1名
- 大庭 1名
- 善行団地 1名
- 鎌倉市 2名
- 相模原市 1名
- 茅ヶ崎市 3名



年間活動一覽

2012年4月～2013年3月

月	日	内部活動	研修、学習	日	外部活動
4月	4	臨時部門代表者会議	新パソコン学習会	25	被災地支援（パラルソル喫茶）
	5	厨房会議			8 国家ビジョン研究会
	6	第1回運営会議			10 藤沢市市民活動推進委員会
	9	ホームヘルプミーティング			12 藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	10	デイリーダー会議			23 市民福祉団体全国協議会中期計画策定委員会
	11	第1回部門代表会議			26 市民福祉団体全国協議会常務理事会
	13	税理士打合せ			26 J Iフォーラム
	14	第1回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議			29 コンフォオール藤沢自治会総会
	16	藤が岡の家月例会事会			「医療改革の突破口・家庭医総合医の確立へ」
	18	臨時部門代表会議			
	19	しがらきリーダー会議、しがらき運営推進会議			
	24	デイミーティング			
	25	一 番館・しがらきミーティング			
	25	花どけいNo. 6.5 発行			
	26	ケアマネミーティング、藤が岡の家ミーティング			
	27	どんぐり園こどもの日交流会			
5月	1	厨房ミーティング	「排泄ケアセミナー」主催：ユニチャーム・フランクスベッド	10	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	4	第2回運営会議	22 「統合失調症について」主催：藤沢市・藤沢病院	11	厚労省「介護職員の処遇改善に関する懇談会」
	7	ホームヘルプミーティング、第1回交流会企画委員会		12	国家ビジョン研究会
	9	第2回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議		12	～13 被災地支援（パラルソル喫茶）
	12	第2回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議		17	藤沢市市民活動推進委員会・協働事業プレゼン審査員
	14	期末監査		17	藤沢市認知症対応型通所介護連絡会
	17	事務局会議		17	居宅サブ連絡会議「相談支援事業について」
	23	一 番館・しがらきミーティング		22	藤沢市小規模連絡会
	24	しがらきリーダー会議		22	江戸川人生大講師「地域デビュー私の場合」
	24	研修プロジェクト		25	藤沢市市民活動推進委員会・協働事業プレゼン審査員
	24	藤が岡の家月例会事会		28	「社会保障と税の一体改革」主催：湘パ・サ・ビ 振興会
	26	第8回（通算第20回）通常総会		30	民間介護事業推進委員会
	29	ケアマネミーティング		31	「高齢者住宅セミナー」講師 主催：高齢者住宅新聞
	29	デイミーティング			
	30	藤が岡の家ミーティング			
6月	1	第3回運営会議	9 「水からお花のおりか？」主催：藤沢市せつけん推進協議会	2	市民福祉団体全国協議会総会・シンポジウム
	4	ホームヘルプミーティング、訪看ミーティング、厨房ミーティング	12 「認知症ケアのポインと今後の在り方」主催：事業所連絡会	5	居宅介護支援事業者連絡協議会総会・基調講演」
	5	デイリーダー会議	13 「小規模の看護士の役割と複合型サービスについて」	9	～10 被災地支援（パラルソル喫茶）
	6	第3回部門代表会議	15 「災害時における医療・介護について」主催：在宅医療研究会	13	神奈川県小規模連絡会
	9	第3回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議	16 辻堂地区津波対策講演会	14	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	11	複合型サービス検討会		16	梁山泊セミナー講師 主催：市民事業支援機構
	14	しがらきリーダー会議		17	「社会参画セミナー・江の島塾」講師
	14	藤が岡の家月例会事会		18	居宅介護支援事業者連絡協議会総会
	20	厨房会議		21	「NPO法人あじさい 接遇研修（宇都宮）」講師
	21	しがらき運営推進会議		21	「日本在宅介護協議会総会」懇親会
	22	複合型サービス検討会		22	コンフォオール藤沢夏まつり実行委員会
	23	第1回交流会「カジュアルランチ会」		27	～28 「iSB公共未来塾（岩手）」講師 日本サード・セクター
	25	税理士打合せ		28	藤沢市市民活動推進委員会
	25	第1回理事会			
	25	藤が岡の家ミーティング			
	26	デイミーティング			
	27	一 番館・しがらきミーティング			
	28	ケアマネミーティング			
7月	6	第4回運営会議	2 「デンマーク高齢者福祉政策と介護の現状」主催：シルバークービス振興会	5	民間介護事業推進委員会
	9	ホームヘルプミーティング	7 公開医療講座「福祉施設で必要な医療・介護」主催：ぐるーぶ藤研修PU	7	「事業型NPO育成支援講座（名古屋）」講師
	9	厨房ミーティング	12 「依存症について」主催：藤沢市・藤沢病院		主催：日本サード・セクター
	10	デイリーダー会議	20 藤沢市包括・主任ケアマネ研修会	12	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	10	花どけいNo. 6.6 発行	20 「増え続ける社会保険日本医の医療・看護・介護」	13	藤沢市地域生活支援連絡会
	11	第4回部門代表会議	27 指定介護保険事業者研修セミナー	14	～15 被災地支援（パラルソル喫茶）
	14	第4回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議	27 「感染症の予防について」主催：藤沢市介護保険課	16	東海大学講師
	19	しがらきリーダー会議		17	藤沢市小規模連絡会
	19	藤が岡の家月例会事会		25	藤沢市訪看ステーション連絡協議会
	21	一 番館運営懇談会		30	コンフォオール藤沢夏まつり実行委員会
	24	デイミーティング			
	25	一 番館・しがらきミーティング			
	26	ケアマネミーティング			
	27	税理士打合せ			
	30	藤が岡の家ミーティング			
8月	3	第5回運営会議	18 第20回竹内先生介護講座 共催：ポラテアすみれ、ぐるーぶ藤研修PU	1	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	6	ホームヘルプミーティング、訪看ミーティング、厨房ミーティング	24 「地域包括ケアとしての小規模多機能型居宅介護の位置づけ」	9	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	7	デイリーダー会議	30 ケアマネ研修	10	市民福祉団体全国協議会政策委員会・常務理事会
	8	第5回部門代表会議		11	～12 被災地支援（パラルソル喫茶）
	11	第5回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議		16	藤沢市認知症対応型通所介護連絡会
	14	一 番館避難訓練		17	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	16	しがらき運営推進会議		22	藤沢市市民活動推進委員会
	16	しがらきリーダー会議		25	コンフォオール藤沢夏まつり
	22	厨房会議		28	民間介護事業推進委員会
	27	税理士打合せ			
	27	ケアマネミーティング、藤が岡の家ミーティング			
	29	一 番館・しがらきミーティング			
	30	ケアマネミーティング			
	31	第6回運営会議			
9月	3	ホームヘルプミーティング、厨房ミーティング	10 スキルアップ研修（18・26）	4	藤沢市住まいと暮らし連絡会 役員会
	4	デイリーダー会議	11 難病患者等ホームヘルパー研修	6	民間介護事業推進委員会
	5	第6回部門代表会議	15 「緩和ケア推進事業研修会」主催：藤沢湘南台病院	13	市民福祉団体全国協議会運営審議会
	8	第6回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一 番館スタッフ会議	15 准看護師のためのスキルアップ研修Ⅱ「高齢者の介護」	14	藤沢市地域生活支援連絡会
	13	藤が岡の家月例会事会	25 湘南東部グループホーム職員研修会	22	～24 「iSB公共未来塾岩手県ビジネスコンベン審査員
	20	しがらきリーダー会議	25 「ケアマネジメンのあり方検討会の動向と地域包括ケア」	25	市民福祉団体全国協議会常務理事会
	20	事務局会議	主催：NPO渋谷		
	21	臨時運営会議	27 福祉機器展・国際シンポ「デジタルの取り組みは日本に生かせるか」		
	24	藤が岡の家ミーティング			
	24	第2回理事会			
	25	デイミーティング			
	26	一 番館・しがらきミーティング			
	26	税理士打合せ			
	28	交流会企画委員会			
	28	ケアマネミーティング			

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
10月	1	ホームヘルプミーティング、訪看ミーティング	2	「在宅療養者口腔ケア研修会」主催：藤沢市歯科医師会	3	「安心して老いるために」講師 主催：藤沢市教育委員会
	5	1 厨房ミーティング 5 第7回運営会議	3	気分障害について研修	3	3 住まいと暮らし連絡会
	6	6 しがらき家族会	4	4 スキルアップ研修 (19.24)	4	4 藤沢市認知症対応型通所介護連絡会
	9	9 デイリーターミーティング	14	「認知症の方を地域で支える為の精神科医療」 主催：藤沢市グループホーム・小規模連絡会	6	6 ～8 iSB公共未来塾宮城県ビジネスコンベンション
	10	10 第7回部門代表会議	14	～21 海外研修(デンマーク)	9	9 「地域福祉のために資産を提供する」 主催：システム研
	10	10 花どけいNo.67発行	15	「ノロウイルス等感染症研修会」	9	9 民間介護事業推進委員会
	11	11 しがらき運営推進会議	19	「今介護支援員に伝えたいこと」主催：藤沢市ケアマネ事業所連絡協議会	11	11 藤沢市個人情報保護推進委員会
	13	13 第7回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	22	「平成24年度介護支援専門員新任者研修」	13	13 ～14 被災地支援(パラソル喫茶)
	15	15 藤が岡の家ミーティング	23	「感染症ステップアップセミナー(感染症対策担当者向け)」主催：藤沢市保健所	24	24 藤沢市住まいと暮らし連絡会・役員会
	17	17 厨房会議	26	「会計ソフトの説明会」 主催：ソリマチハイテクノロジーズ	24	24 藤沢市訪看ステーション連絡協議会
	23	23 デイミーティング	26			
	24	24 一番館・しがらきミーティング				
	25	25 しがらきリリダー会議				
	26	26 税理士打合せ				
	27	27 救急救命講座				
	29	29 藤が岡の家ミーティング				
11月	2	第8回運営会議	8	サービスマン提供責任者スキルアップ研修	1	藤沢市市民活動運営選定委員会
	2	2 インフルエンザ予防接種	8	「理事長と語る会」(16.21)	1	1 藤沢市市民活動推進委員会
	5	5 ホームヘルプミーティング、厨房ミーティング	9	「啓蒙吸引等制度地域説明会」主催：神奈川県保健福祉局	4	4 市民福祉団体全国協議会「石巻ハウス」開所式
	6	6 デイリーダー会議	9	「腰痛対策セミナー」(便秘と腰痛)主催：藤沢市市民病院	6	6 市民福祉住まいと暮らし連絡会・役員会(19)
	7	7 第8回部門代表会議	14	「知っておきたいレビィ小体型認知症」主催：家族の会	8	8 藤沢市個人情報保護推進委員会
	10	10 第8回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	15	在宅医療研究会「在宅ネットよこはまより学ぶ」主催：在宅医療を考える会	9	9 ～10 被災地支援(パラソル喫茶)
	15	15 第1回複合型サービスマン開設委員会	15	施設見学 「ライフコミュニケーション鎌倉」「はなままデイサービス藤沢羽鳥」	17	17 門倉組創立100周年記念式典
	15	15 事務局会議	18	「今後の認知症施策の方向性について」主催：藤沢市地域密着事業所	26	26 横浜国立大学講師
	17	17 ティハハウス藤の花・菜の花合同家族会	22	キャリアマンメント養成講座		
	17	17 合同夜間避難訓練(一番館、しがらき、藤が岡の家)	29	「ターナーナルに於ける医療と福祉の連携」主催：事業所連絡会		
	19	19 第1回新小規模開設委員会				
	22	22 しがらきリリダー会議				
	22	22 藤が岡の家月例会食事会				
	24	24 第2回交流会「屋形船」				
	26	26 藤が岡の家ミーティング				
	28	28 一番館・しがらきミーティング、デイミーティング				
	29	29 第2回複合型サービスマン開設委員会、ケアマネミーティング				
	30	30 第9回運営会議				
12月	3	ホームヘルプミーティング、訪看ミーティング、厨房ミーティング	5	サービスマン提供責任者スキルアップ研修	1	～2 サードセクター郡山コンベンション審査員
	3	3 第2回新小規模開設委員会	6	精神保健福祉公開講座「大人の発達障害」主催：藤沢市保健所	3	3 「グループホーム等開設説明会」主催：障害者サポートセンター
	4	4 デイリーダー会議	6	「理事長と語る会」(16)	4	4 市民福祉団体全国協議会政策委員会・常務理事会
	5	5 有償ボランティア食事会	8	「マニユアル管理者研修」主催：神奈川県訪問看護連絡協議会	8	8 ～9 被災地支援(パラソル喫茶)
	5	5 第9回部門代表会議	12	「要介護認定における意見交換会」主催：居宅事業所連絡会	12	12 藤沢市住まいと暮らし連絡会・役員会(18)
	8	8 第9回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	13	新人フォローアップ研修	13	13 藤沢市個人情報保護推進委員会
	17	17 第3回理事会	18	「震災から1年9か月。今、被災地で起きている現実 ～南東部圏域におけるグループホーム等職員向け研修 「障害者虐待防止法の理解と支援事例について」	15	15 ～16 21世紀かながわ円卓会議
	18	18 第3回小規模開設委員会	19	「療養の局所治療」主催：市民病院褥瘡対策委員会	21	21 厚労省・公表における意見聴取会
	19	19 ゴールデンノッククリスマスコンサート	21	「褥瘡の局所治療」主催：市民病院褥瘡対策委員会	21	21 梁山泊・講演会
	19	19 厨房会議	22	「研修の局所治療」主催：市民病院褥瘡対策委員会	25	25 民間介護事業推進委員会
	20	20 しがらき運営推進会議			25	25 「ケアマネの資質向上と今後のあり方検討会」
	20	20 藤が岡の家ミーティング・クリスマス会			27	27 市民自治推進課・選定委員会
	25	25 税理士打合せ				
	26	26 一番館・しがらきミーティング、デイミーティング				
	27	27 ケアマネミーティング				
	28	28 新小規模打合せ				
1月	4	第10回運営会議	15	神奈川県相談支援従事者研修(16・25・28)	5	藤沢市賞詞交歓会
	7	ホームヘルプミーティング	15	神奈川県小規模研修会「グループミーティング」	10	10 藤沢市個人情報保護推進委員会
	8	8 デイリーダー会議、厨房ミーティング	18	ヘルパー研修	13	13 コンフォール藤沢新春の集い
	9	9 第10回部門代表会議	18	「認定調査票の役割と特記事項の記入のポイント」主催：藤沢市	15	15 藤沢市小規模連絡会
	10	10 第3回複合型サービスマン開設委員会	21	新人フォローアップ研修	17	17 藤沢市個人情報保護推進委員会
	12	12 第10回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	24	複合型サービスマン研修「ふくふく柳町・寺前」見学	19	19 「あべともこ新春の集い」
	12	12 第3回交流会「新年会」	29	介舟ファミリアバージョンアップ機能説明会	23	23 藤沢市訪看ステーション連絡協議会
	17	17 事務局会議	30	平成24年度第6期新規セミナー	26	26 ～27 被災地支援(探択者訪問指導)
	19	19 一番館・しがらきスタッフ会議				
	22	22 第4回新小規模開設委員会				
	23	23 一番館・しがらきミーティング、デイミーティング				
	23	23 藤が岡の家月例会食事会				
	25	25 花どけいNo.68発行				
	28	28 税理士打合せ、訪看ミーティング				
	30	30 臨時部門代表会議、藤が岡の家ミーティング				
	31	31 ケアマネミーティング、一番館初詣				
2月	1	第11回運営会議	2	啓蒙吸引指導講習会	5	藤沢市住まいと暮らし連絡会・役員会(12)
	4	ホームヘルプミーティング、厨房ミーティング	7	精神保健福祉公開講座「認知症について」	23	23 藤沢市市民自治推進事業「公開プレゼンテーション」
	6	6 第11回部門代表会議	14	新人サービスマン提供責任者研修	25	25 介護プロフェッショナルキャリア段位制度 第1回レベル認定委員会
	7	7 第4回複合型サービスマン開設委員会	16	松本ハウスが語る「統合失調症のこと」		
	8	8 臨時運営会議、第5回新小規模開設委員会	18	「住宅改修：福祉用具に関する研修」主催：居宅事業所連絡会		
	9	9 第11回運営報告会、ヘルパー会議	19	「湘南東部グループホーム職員研修」		
	9	9 一番館・しがらき、藤の花合同スタッフ会議	19	「フードケータリングショー」ビッグサイト		
	12	12 NHK取材(15)→2/25「大人ドリル」放映	20	精神障害者ホームヘルパー現任研修		
	13	13 臨時部門代表会議(20.27)	26	神奈川県相談支援従事者研修(27・28)		
	15	15 複合型しがらきの湯、小規模藤の花開所				
	19	19 厨房会議				
	21	21 藤が岡の家月例会食事会				
	25	25 税理士打合せ				
	25	25 藤が岡の家ミーティング				
	27	27 一番館・しがらき・藤の花合同ミーティング				
	28	28 しがらき、藤の花合同運営推進会議、ケアマネミーティング				
3月	1	第12回運営会議	9	「実践にすぐに役立つ遺族ケア・エンゼルケア・エンゼルメイク」 主催：西湘地区訪問看護ステーション定例会	5	5 啓蒙吸引研修打合せ(クローバーホスピタル)
	4	4 ホームヘルプミーティング、訪看ミーティング、厨房ミーティング	25	～4/30 啓蒙吸引研修(クローバーホスピタル)	7	7 民間介護事業推進委員会
	6	6 第12回部門代表会議	26	「医療連携・入院予防・早期発見 在宅ターミナルにおけるケアマネジメントの動向」主催：NPO渋谷	12	12 市民福祉団体全国協議会政策委員会(16)
	9	9 第12回運営報告会、ヘルパー会議			14	14 藤沢市個人情報保護推進委員会
	11	11 ふじアワード代表打合せ			15	15 藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会
	13	13 臨時部門代表会議(27)			18	18 「民間介護事業推進委員会」・国民会議対応打合せ
	14	14 藤が岡の家月例会食事会			21	21 藤沢市市民活動推進委員会
	18	18 「第1回ぐるーぷ藤・藤が岡債」申込受付			23	23 村岡公民館「地域でたすけあいしよう」講師
	21	21 しがらきリリダー会議、事務局会議				
	25	25 臨時理事会、第4回理事会				
	25	25 藤が岡の家ミーティング				
	25	25 税理士打合せ				
	28	28 一番館・しがらき、藤の花合同ミーティング				
	28	28 ケアマネミーティング				

提 案 者

理 事 長	鷺尾 公子
常務理事	吉村 さえ子
理 事	垣見 凌子
理 事	黒川 栄
理 事	小林 純二郎
理 事	佐藤 律子
理 事	富田 信美
理 事	松岡 薫
理 事	國原 浩
監 事	小野 淑子
監 事	藤澤 抱一



歳をとっても病気になっても

障がいがあっても

いつまでも自分らしく暮らせる街を創りたい

第9回（通算21回）通常総会議案書

発行日 2013年5月19日

発行者 NPO法人ぐるーぷ藤 理事会

住 所 藤沢市藤が岡1-4-2

電 話 0466-24-3100